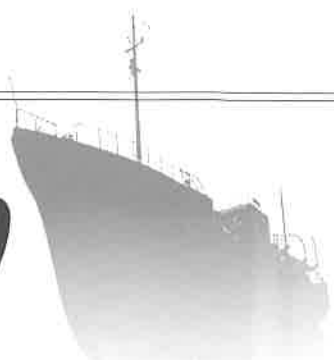


2015.05.01
No.387
(5・6月号)

福竜丸だより

発行：公益財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島2-1-1 〒136-0081 第五福竜丸展示館内
Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail: fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org



枝ぶりが広がった桜の横に「21世紀を平和の世紀へ」の標柱が立つ。長年海中に没しサビが浸食して痛みがすすむエンジン。



第五福竜丸エンジン

平和への航跡

第五福竜丸のエンジンが夢の島の展示館前ひろばに設置されて一五年になります。

エンジンは、第五福竜丸廃船の一九六七年春に廃船業者により売却され、貨物船・第三千代川丸に積み込まれました。翌六年七月、同船は濃霧のため三重県御浜町の海岸に座礁し、その後の台風により船体が崩壊、エンジンは海中に没しました。

二八年後の一九九六年暮、和歌山県の有志の手でエンジンが引き揚げられ、これに呼応して東京の被爆者、女性、生協、原水禁運動などの市民団体が共同して「エンジンを東京・夢の島へ」のとりくみをすすめました。

東京都は市民運動の要請を受けとめ、二〇〇〇年一月にエンジンの展示公開が実現しました。

これを記念し東京地婦連により植えられた八重紅大島桜。花の咲くころにつどいましょうと運動の中心を担った七団体に当

協会も加わり「第五福竜丸から平和を発信する連絡会」が作られ、毎年四月初めに「お花見平和のつどい」が開かれてきました（八めん記事）。

展示館と第五福竜丸、久保山記念碑、マグロ塚、エンジンのいずれもが、平和を願い核なき世界を希求する市民の声と運動により遺され、あるいは作られたものです。建造六八年の第五福竜丸そしてエンジン、歳月の重みを受けて補修計画の検討と立案がもとめられます。

船をエンジンを遺した人びと…その願いを次代に引き継いでゆくことにも思い巡らせます。

四月下旬からニューヨークの国連で、核不拡散条約再検討会議が開かれ、広島・長崎の被爆者四〇名余が渡米し、原爆展の開催や証言活動を繰り広げました。被爆者の願いとも呼応して第五福竜丸とエンジンの航海はつづきます。

被爆七〇周年とラッセル・アイ ンシュタイン宣言六〇周年

沢田昭二

今年二〇一五年は広島・長崎原爆投下、第二次世界大戦終結、および国連憲章制定の七〇周年である。また、核兵器と戦争の廃絶を訴えたラッセル・アインシュタイン宣言が六〇周年を迎える。

国連憲章は 武力行使原則禁止

人類は一九世紀後半から非人道的兵器の使用を禁止するなど、戦争の犠牲を軽減する国際条約の制定を始めた。第一次世界大戦で戦争の悲惨さがさらに深刻になると「戦争に訴えざるの義務を受諾」し



沢田さんは中学2年のとき広島で被爆された

て加盟する国際連盟を組織した。日本が事変と称して侵略戦争を始めたことなどに対応して、第二次世界大戦で日本の降伏が見えてきた一九四五年六月「武力行使を原則禁止」する国連憲章が策定され、戦争が終われば、人類は武力行使のない平和な世界をめざすと期待された。

核エネルギーの悪用で 核脅迫の時代に

原爆と水爆が出現して核脅迫政策をもたらし、国連憲章に従って人類が発展するはずの道を七〇年間も閉ざしてしまつた。

ナチスドイツが原爆を造っていないことが判明すると物理学者ロートブラットはマンハッタン計画から離脱して英国に帰った。しかし、米国は日本が降伏するまでに原爆を急いで完成させ、ソ連を脅して従属させる目的で広島と長

崎に原爆を投下した。脅されたソ連は対抗して原爆製造を始めた。こうして核軍拡競争を背景に米ソ冷戦が始まり、国連憲章の理念に反する軍事同盟が米ソをそれぞれの中心としてつくられた。憲法第九条で「武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」とした日本は自衛隊をつくり、沖繩をはじめ各地に米軍基地を置いた。

ビキニ事件からラッセル・ アインシュタイン宣言まで

米ソ水爆開発競争の最中の一九五四年三月一日、米国はマーシャル諸島ビキニ環礁で広島原爆の千倍の爆発力を持つ水爆の実験を行った。操業中のマグロ漁船第五福竜丸が放射性降下物で被曝して焼津に帰ってきた。これをきっかけにした署名運動を背景に、翌年原水爆禁止世界大会が開かれ、核戦争阻止、核兵器全面禁止、被爆者援護連帯の運動が始まり六〇年目を迎える。

水爆が3F爆弾と呼ばれる大量の放射性物質をまき散ら

す「汚い水爆」だという情報をロートブラットは哲学者で数学者のラッセルに伝え、一九五五年七月にラッセル・アインシュタイン宣言（以後RE宣言）が発表された。

宣言の今日的意義

RE宣言は、東西冷戦の中で全人類の立場から、核兵器と戦争の廃絶の問題などの議論をするよう世界の科学者に呼びかけた。これに呼応して一九五七年からバグウオッシュ会議と呼ばれる科学者の会議が開かれるようになった。今年の十一月、第六一回バグウオッシュ会議が長崎で開かれる。

RE宣言は、共産主義と反共産主義の立場の違いを乗り越え、「人類の一員」として核兵器と戦争の廃絶を訴えた。ビキニの水爆実験を踏まえ、水爆で大都市が次々と抹殺されるのは悲惨事の始まりに過ぎず、吹き上げられた放射性粒子が徐々に降下して人類の終末をもたらす可能性を指摘した。

この問題は、広島・長崎の原爆被爆者が原子雲から降下

した放射性微粒子を呼吸などで体内に摂取したことによる内部被曝、さらにビキニ水爆実験で被災した第五福竜丸を含む千隻に及ぶ乗組員の深刻な内部被曝とも重なる。しかし、日米政府や国際的な放射線防護基準ではこうした内部被曝の深刻さを無視し続けている。

非人道性に基づいた 核兵器禁止条約を

今日、なお核脅迫政治が続き、国連憲章に反してテロを口実に武力行使が続いている。四月下旬から始まる核不拡散条約再検討会議において圧倒的多数の国々が核兵器の非人道性に基づいて核兵器禁止条約の交渉開始を求めている。

安倍政権は被爆国であるのに米国の「核の傘」にしがみつき、その上、「国際平和支援法」で自衛隊に米軍の戦争支援をさせようとしている。国連憲章、憲法九条、RE宣言の示す武力行使のない平和な世界をめざそう。（さわだしょうじ／名古屋大学名誉教授、日本原水協代表理事）

ビキニ事件を たどる旅

市田 真理

高知のビキニ事件

三月一七日、高知県主催の「健康相談会」が室戸市で開催された。太平洋核被災支援センターなどが三十年來求めてきたことが、ようやく実施されたもので、「健康調査」だけではなく、被害者遺族の相談も同時に行なわれた。

昨年、第五福竜丸の被ばく六〇年にあたり、協会役員や関係者でたびたび議論があった。アメリカが行なった核実験は水爆ブラボーだけではなし、被害は第五福竜丸だけではない。多くの漁船の被ばくと水産業界への打撃、放射能雨、核実験場となったマーシャルの被害などもいまだ続いており、六〇年はひとつの区切りではあるがすべてではない。

第五福竜丸だけが被ばくし、久保山愛吉さんだけが亡くなった、では事態を見る目があまりに狭い。一九七九年の「福竜丸だより」特別臨時号では、こうした認識は「デマであり、おとぎばなし」、「ビキニ事件と呼ばれるものを多角的に明らかにすべき」と提言している。

ないとも言っていた。

第五福竜丸だけではない

三月一七日、高知県主催の「健康相談会」が室戸市で開催された。太平洋核被災支援センターなどが三十年來求めてきたことが、ようやく実施されたもので、「健康調査」だけではなく、被害者遺族の相談も同時に行なわれた。

家庭では一切、海でのできごとを話すことなく、若くして他界した父のことを涙ながらに語る女性、体調不良は被ばくが原因かを確かめる元乗組員らが、相談会と並行して開かれていた集いで次々に発言していた。また当時、魚の放射能汚染について口にするのが憚られた地元の人々も語られた。それでも、魚を再び船に積んで沖で捨てた記憶は、消し去ることはでき



証言する第二幸成丸乗組員だった桑野浩さん

日米両政府の政治決着で二〇〇万ドルの慰謝料（外交交渉では補償金と呼ばれたが、実際には被害に対する賠償ですらない）支払い合意ができたのが一九五五年一月四日。関係省庁が会議を重ねて分配を決めたのは四月二八日だった。放射能汚染による廃棄物については、自治体を通して船主に支払われたものの、一人ひとりの船員が補償されたとはいえない。ましてや船主には生活丸ごと世話になっているという意識が強いコミュニティで、多少の不満も飲み込んで黙々と次の漁に向かうしかなかったのだ。

しかし、高知県の被害実態を明らかにすることは、第五福竜丸を孤立させないことにつながる、と言われ、はっきりとした。そうなのだ、第五福竜丸を被災船全体に位置づけなおすことで、ビキニ事件の真相を浮かびあがらせるのだ。

焼津く微妙な市民感情

公的な歴史記録と人びとの

記憶の乖離は、どうやって埋められるのだろうか。四月九日、第五福竜丸の母港焼津をあらためて歩いた。六一年前、米大使が初めて遺憾の意を示し、日本の外相が水爆実験に協力すると演説した日だ。

「厄介船」と呼ばれた第五福竜丸は市場の対岸へ、さらに人目につかないようにと河口付近へ移動させられた。係留地付近が通学路だった方にもお話を聞いた。白衣姿の男性がガイガーカウンターで測定しているのを、不気味な思いで見つめた、しかし第五福竜丸以外の被害については記憶がない、という。

当時、焼津港では一二五隻から放射能汚染魚がみつかり、うち焼津船籍は二七隻に上る（枝村三郎「第五福竜丸被災と焼津漁業の被害」『第五福竜丸は航海中』。三月二四日に帰港した第一繁伍丸の船体から一五〇カウントの放射能が検出され、魚価下落で百数十万円の損失だった。第二吉祥丸は、実験の閃光（水爆口メオと思われる）を目撃し船内から放射能が検出され、外務省資料によれば、船

室の枕カバーから一三〇カウント、炊事室床から一二四カウント、漁獲物一四〇カウントと記録されている。

漁港が整備され、町村合併で拡張路線にあった焼津において、被害は第五福竜丸だけ（であってほしい）との思いが、人びとから記憶を奪ってしまったのだろうか。

人類の未来を啓示する船

「被害」の認定は難しい。核実験当事者のアメリカは、被害を第五福竜丸以外にまで拡大されては、核開発・実験に支障が出かねないと警戒した。高揚する原水爆禁止の世論は日本政府にとって目障りだった。たいしたことではなかった、いまさら騒ぎたててもしかたない、そんな気分を醸して事態を矮小化し、人びとが忘れるのを待っているのは、いったい誰なのだろう。

第五福竜丸平和協会初代会長の三宅泰雄博士は「第五福竜丸は過去というよりもむしろ、人類の未来を啓示する」と語った。わたしたちの未来は、どこへ向かうのだろうか。（いちだまり 展示館学芸員）



毎年一月から三月の学年末には社会科見学で訪れる小学生、四月から六月は修学旅行生が多数来館し、事後学習の成果や感想文が送られてきます。

福島の中学生たちは、展示ケースの中のガイガーカウンターの様子を見て、今よりもずいぶん大きいことに驚き、山梨の

来館者の感想より

未来を紡ぐ

子どもたち

小学生たちは、船がボロボロなのは年をとってしまったせいだろうか、と率直な感想を抱き伝えます。

神奈川の中学生たちは、第五福竜丸展示館の見学を通して、自分たちにとって平和とはなんだろうかという学びを深め、文集にまとめました。

T君は「これは過去のできごとだが、今おこらないとはかぎらない」と感じ、Sさんは作文のタイトルに「負の記憶」Fさんは「誰も傷つくことのない世界へ」とつけました。Eさんは「世界の平和が無理だとしても、身近な平和は私たちの手で作れると思います」と決意をこめ、K君は「平和になるためには、なん

らかの犠牲がなくてはならないのだから。過去の悲劇を繰り返さないためにも、事実と向き合っていかななくては」と書いています。

私たちを取り巻くニュースを見たり、家族とも話したようですが伝わってきます。

Iさんは「平和とは傷つけあわず、すべての生き物が幸せに暮らすこと。日本が平和という言葉におさまるのは、



まだまだ先のことだろう。でも平和への道は少しずつでも進んでいるのだと思う」。

Y君の作文はみずみずしい感性があふれています。「そびえたつ船に圧倒された。平和への思いがより一層強くなった。それでもまだ平和とはどのようなものか、ほんやりとしかわからない。平和とは何かということを追いかけることが、若者に与えられた使命なのではないか。今を平和に生きることだけ考えても平和にはつながらない。大切なのは過去の過ちをみつめることではないだろうか。」

第五福竜丸は今年もたくさん、若者たちからの言葉に励まされ、見守られています。



新井卓ダゲレオタイプ写真展 竜の鱗—アトミック・エイジの軌跡

最古の写真技法ダゲレオタイプ（銀板写真）を駆使し高い評価を得る新井卓が「核」を追った作品展。第五福竜丸、大石又七、トリニティサイト、ヒバクシャ、福島などの作品をとおして、核の時代、現在を透視する。（写真は「福竜丸多焦点モニュメント」）

◇ 7月16日（世界最初の核実験の日）
より10月12日 入館無料

2015年度企画展（展示替）のご案内

企画展 ラッセル＝アインシュタイン宣言 60年 核なき世界は本当にくるのか—「ヒト」として考えよう

巨大な破壊力をもつ水爆の出現、第五福竜丸の被ばくと久保山無線長の死などから放射能による環境汚染の懸念も広がりました。物理学者のアルバート・アインシュタインと哲学者のバートランド・ラッセルがよびかけ11人の科学者の署名による「ラッセル＝アインシュタイン宣言」が発表されたのは1955年7月9日。それから60年、改めて宣言の内容と今日的な意味を考える企画展と講演会を催します。

◆展示 6月21日～7月12日

◇記念講演 ヒトとして、水爆の時代といまを考える

* 7月5日（日）午後2時～4時30分

会場 第五福竜丸展示館内 参加費・無料

* 小沼通二（世界平和アピール七人委員会、慶応大学名誉教授）

—ラッセル＝アインシュタイン宣言 60年その意味を考える—

* 高原孝生（明治学院大学国際平和研究所長、日本パグウォッシュ会議）

—NPT再検討会議から見えてくる核の今日的状況— ほか

連載③

晴れた日に
雨の日に

山村茂雄

全廃促進・新安保廃棄・日本の核武装をやめさせる」が入っています。八周年集会の名称は、いままでの集会と同じようにビキニ被災八周年の冠につづいて「原水爆禁止焼津全国集会」とシンプルです。

*

六三年二月二八日、静岡で開かれた日本原水協第58回常任理事会は、声明「原水爆禁止運動の統一と強化について」の承認、焼津全国集会のスローガン、宣言案で対立、集会当日の三月一日未明、会議出席の担当常任理事会を構成する、理事長、常務理事、担当常任理事全員が辞職する事態に至ります。予定されていた「ビキニ被災九周年原水爆禁止焼津全国集会」は開催不能、中止になります。辞職した担当常任理事会は日本原水協の常時執行機関です。

その後、地方原水協の働きかけを軸に事態收拾がはかられ、曲折を経て、六月、全国常任理事会を開き、担当常任理事会の機能回復、第九回世界大会の広島開催が決定されるのです。しかし世界大会は、大会運営、運動目標で意見が

対立、平和公園で開会総会が開かれた八月五日、社会党・総評系役員・代表は大会からの脱退を通告、大会は分裂します。大会そのものは海外代表をふくめ決議を採択し七日閉会しますが、社会党・総評系代表は独自集会（六日）を開き、八月九日の長崎大会は中止されるのです。

*

この小文では「分裂問題」の所在、そのありように触れませんが、原水爆禁止運動の分裂の状況がづくなく、五年後に取り組まれることとなる第五福竜丸保存運動の立ち上げで、呼びかけ人八氏が「それぞれ個人の資格で」とのこゝとわりを語られる背景に「分裂の状況」があったことは容易に推し量れることでした。保存委員会の構成、その後の運営などで慎重な対応を迫られた問題のいくつかは前にもふれてきました。

*

第五福竜丸保存委員会は六九年結成以後、久保山愛吉さんの命日九月二三日には、追悼行事、記念の「つどい」を開いてきました。「つどい」

での記念講演は毎期待されるものの一つでした。

七〇年の「つどい」は中野好夫さんの「日米共同声明と被爆国民」、七一年も中野さんが「沖繩返還と被爆国民」と題して講演。七二年の千葉工大近藤弘さんをはさみ、七三年は小川岩雄立教大学教授が「核兵器の現状と完全禁止への道」、七四年も小川さんの「核問題の現状」でした。

七四年集会は、前年設立の第五福竜丸平和協会と例年共催の静岡県保存運動よびかけ人会議に静岡県労評と静岡県平和委員会が加わり四者共催でした。原水爆禁止運動の統一を視野におく静岡の平和・原水禁運動の取り組みを反映していました。統一世界大会は三年後のことです。

*

七四年集会のあと「焼津のマグロを食べる会」がもたれ、小川岩雄さんも参加されていきました。帰りがご一緒でした。東京まで、ワンカップを傾けながらお話をうかがいました。それまでも原水禁運動への協力、原稿の依頼などお声を交わしたことはありません。

したが隣り合ってお話を聞けるのは得難いことでした。

前回、小川さんが湯川秀樹さんの記念講演「おじの話」を満員の会場で聴かされていたと記したことも、そのとき伺ったことでした。小川さんは「おじ」と言い「湯川さん」と言い方を変え、熱を入れて話すおじの姿に感動されたと話されたのでした。講演の復文は私がお伝えたのでした。

後年、私が平和協会理事の末席に連なることになり、理事会などで親しくご意見を拝聴できるようになります。

*

第五福竜丸保存委員会・平和協会によって焼津で開かれてきた「追悼会」や「記念のつどい」は、七六年六月、第五福竜丸展示館が開館してからは、展示館前庭に建立された「久保山愛吉記念碑」前で行われるようになります。現在の九・二三行事は、「平和を語るつどい」、「久保山忌句会」、「マグロ塚の会」の催しなどが平和協会の協賛・共催で開かれています。（やまむら しばお/協会顧問）

前回は、ビキニ水爆被災を記念する集会在、被災の翌年から毎年名称に周年を冠して開かれたことを振り返りました。この「記念集會」が、一回だけ中止されたことがあるのです。それは六三年の九周年集會でした。今回はその中止の経過を、前回の四周年までの紹介につづけて記しておくことにしました。

五周年集會は焼津・漁港ホールで開かれます。作家の火野葦平さんが記念講演、集會名称に「核武装反対」が入り安保条約反対が打ち出されています。六〇年の六周年集會は東京で開催され、名称に「軍備全廃要求・新安保条約批准阻止」が入ります。七周年集會も東京開催、名称に「軍備

BOOK Review

永田浩三『ベン・シャーン を追いかけて』(大月書店)

永田浩三さんは旅人だ。

画家ベン・シャーンの生きざまを探るべく、リトアニア、ポーランド、イタリア、イギリス、アメリカ、韓国、永田さんのルーツでもある広島、第五福竜丸のある東京で、ひたすら歩き、ひとに出会ってシャーンの絵を見せ話を聞く。



A5版304頁、カラー図版、写真多数 本体価格2800円

そして立ち止まっては考え、ベン・シャーンを追いかける旅は、本書の終盤でバズルのピースがそろおうように、人と人、場と場がつながりあい一枚の絵を織り成していく。

ベン・シャーンの描いたビキニ事件はラッキー・ドラゴンシリーズとして名高い。永田さんの旅はこのシリーズを描いたシャーンの人生の軌跡をたどるのが目的だった。しかしそれははるかに超え、ドレフュス事件、サッコとヴァンゼッティ、ローゼンバーグ夫妻、マッカーシーと対決したエド・マローウと、冤罪や理不尽に翻弄され、立ち向かった人たちの生き方に焦点を合わせ、シャーンが見つめた風景を追いかけることになる。そして「シャーンの絵は鏡のようなものかもしれないと思う。人びとは自分の人生の断面をシャーンに重ねる、それはそれは不思議な鏡だ」と感じ、「シャーンの絵には、そのひとの人生のなにかが投影される。そのひとならではの物語がシャーンの絵と重なる」と、つぶやきながら、また次の旅に続いていく。

永田さんは映像の人だ。読み進めていくと、風の匂いや空の光、街のさんざめき、教会の鐘やコーヒーカップの触れ合う音が聞こえ、シャーンの絵が見えるのだ。「ひきつり、かすれ、ゆがんでいる」ベン・シャーン独特の線で描いたものは苦悩や不正義、悲しみであるにもかかわらず「すすくと健康的」だとい、シャーンが描いた体の不自由な人は「足は萎えているかもしれないが、その腕は力強く」「片足を失い松葉杖で階段を昇る後ろ姿の男はくじけない」「盲目のアコーディオン弾き」には力がみなぎり、その音は風にかき消されることはない」という具合に。ベン・シャーン最後の作品となった『一行の詩のために』は「リルケ『マルテの手記』より」には、「広島」が描かれていたことも判明する。リルケの言う「一行の詩のためには、あまたの都市あまたの事物を見なければならぬ」に倣って、シャーンが見出した都市が広島だというのだ。そして永田さんもあまたの都市と事物を見続けるために、旅

は続いているようだ。それはラッキードラゴンⅡ第五福竜丸の核なき世界への航跡を共にしているように思われる。

池内了『核を乗り越える』

(新日本出版社)



昨年の「3・11ビキニ記念のつどい」で記念講演された池内了さんの近著。このときの講演に加筆した論考も収録されている。科学の軍事利用と戦後の核開発史、大型原発への道をつつ走ったメガキロワットの時代への変遷、原子力事故の「評価」、福島第一原発事故後に施行された原子力規制法について等、核を乗り越えるための視点を、宇宙の高さから示唆する。

さらに原発が固有に抱える反倫理性の問題、「安全神話」など3・11を経た現在だからこそ浮き彫りにされた問題を論じ、地下資源文明からの転

換を提唱している。

そして現在を生きる私たちに警鐘を鳴らす。私たちは遠い未来のことを考える習慣を失っている。先に進むことばかりを優先し解答を出すことに時間がかかりそうだとすると、先送りし後回しにしていく、と。しかし原発についても資源についても地震や火山噴火や汚染水の行方についても、トランスサイエンスの立場で対処するしもなく、哲学や倫理の観点も含めて幅広く議論し、科学以外の論理も持ち込んで解決しなくてはならない、絶えず現実の状況や結果を検証し直して論理を鍛えなければと、私たちに決意を促す。それは文明の転換を先取りする生き方にほかならない。高い場所から見渡すと地平線が見える。しかし見通せる距離が限定されるように、時間を見通せる「時間の地平線」には限りがある。どれほど未来遠くまで思い描きながら生きるか、人類存続の鍵を握るのは私たち自身だと、本書は訴えかける。A5判190頁 本体価格1600円

(編集部)

第五福竜丸パネル展を 開催しませんか？

—貸出パネルのご案内—

第五福竜丸平和協会では各地でビキニ事件に関する展示会を開催していただくため、貸出用のパネルを制作し活用を呼びかけています。被災六〇年にあたる昨年は、第五福竜丸（当初はカツオ船・第七事代丸）建造の地である和歌山県串本町を始め三〇団体ほどの自治体や公民館、市民団体などが主催し、各地で展示会されました。改めて貸出用パネルのご紹介をします。

基本のセットは、A2判のパネル20枚で構成され、ホールや会議室などのスペースで展示することが可能です。ワイヤーやフックで壁にかける

ことが出来ます。また、基本のセットに増補したB2判の42枚組セットもあります。

その他、マーシャル諸島の核被害にテーマを絞った12枚のパネルセット（小42cm×30cm、大60cm×42cm）や、ビキニ環礁が世界遺産に登録された際に開催した特別展「イケナイ世界遺産」を貸出用に再構成したセットなどご利用いただけます。

また、大規模展向けに第五福竜丸船体の写真を大きく写した掛け軸状のタペストリーや、「死の灰」のレプリカ、ガイガーカウンターなどの現物資料も貸出しが可能です。パネル以外の資料について、



20枚組パネルセット（一部）

串本町での展示会の様子



詳しくは第五福竜丸平和協会までお問合せください。

パネルの受け渡しは郵送・宅配便にて行います。貸出費用につきましては、主催者の予算に合わせてご相談することも可能です。

展示期間は一日からでも利用できます。核関連の映画の上映イベントや、自治体等の平和企画、生協をはじめ市民活動での展示など、第五福竜丸の被災や戦後の核開発、そして放射能による被害を伝え、学びを広げるとりくみを進めましょう。また、八月のヒロシマ・ナガサキ七〇年の企画にもぜひご利用ください。

42枚組パネルセット

20枚組のパネルセットの内容を増補し、マーシャル諸島の核被害に関する詳細なパネルを追加した42枚組セットです。中規模の展示会を催す際に適したパネルセットです。

【主な内容】 第五福竜丸被災、ビキニ事件の写真、解説に加え、マーシャル諸島の核被害。

【サイズ】 B2 (52cm × 73cm) 42枚 アルミフレーム付

【使用費用】 3万円+送料実費

20枚組パネルセット

20枚組のパネルで構成されたもっとも基本的なセットです。第五福竜丸展示館の常設展示に沿い、福竜丸の被災やその後の動向を解説したパネルで、写真や簡潔な文章でビキニ事件の概要を知ることが出来ます。

【主な内容】 第五福竜丸の被災、ブラボー実験、事件のスクープ、乗組員の被害、久保山愛吉さんの死、マグロ騒動、放射能雨、原水爆禁止の声の高まり、マーシャル諸島の被ばく者、世界の核実験、ラッセル＝アインシュタイン宣言、保存運動、エンジンと展示館など

【サイズ】 A2 (42cm × 59cm)

アルミフレーム付

【使用費用】 5000円～10000円+送料実費

現物資料（一部レプリカを含む）

死の灰、マグロの鱗、ガイガーカウンター、日誌類（当直日誌、漁労日誌、航海日誌）、乗組員に宛てられた手紙、ビン玉、延縄、無線機、第五福竜丸模型（元乗組員・大石又七氏製作）、乗組員の日用品、大漁旗等

春はお花見平和のつどい

展示館前ひろばにたわわに花をつけた八重紅大島桜のもとにつどい「お花見平和のつどい」が4月4日に開かれました。あいにくの曇り空に時折雨もまじり肌寒く感じられましたが、150名を超える参加でにぎわいました。

今年は被爆70年。被爆者の高齢化もすすみますが、原爆症認定の裁判やNPT再検討会議への代表派遣など、核の非人道性を訴え、核廃絶を求める活動へと元気いっぱいです。

つどいは、「花」の合唱で開幕、東京地婦連の端山純子副会長の開会宣言、東京の被爆者の会・東友会による「被爆70年とヒバクシャの今」の語りと映像、第五福竜丸平和協会から安田和也学芸員が「いま第五福竜丸のエンジンは」の報告をおこないました。

昼休みのピースミュージック・コーナーは、展示館に馴染の深い松島よしおさんと仲間たちの演奏。第五福竜丸をテーマにした「証の船」が演奏され、「語り続けようこの船を 伝え続けようこの船の名前を」の部分に参加者も一緒に歌いました（写真）。



午後の部は、参加団体からの平和の活動、NPTへの取り組みなどが交歓され、「青い空は」の合唱で閉会しました。終了後、展示館ボランティアガイドによる見学会もおこなわれました。

合同消防訓練を実施



3月16日、夢の島公園内施設をはじめ新木場地域の企業でつくる新木場連絡会による合同自衛消防訓練がおこなわれました。参加者は熱帯植物館に集まり、城東消防署砂町出張所員の立ち合いと指導のもと通報訓練、消火訓練、AEDを使った応急救護訓練の講習を受けました。

火災の通報訓練では熱帯植物館を例に、現場確認、初期消火、通報といった火災発生時の一連の対応を確認しました。消火訓練では、水の入った消火器を用いて消火器の持続時間や射程距離など、使用して初めてわかる消火器の性能を確認することが出来ました。

AED（自動体外式除細動器）の講習は、訓練用の人形を使い実践的な練習をおこないました。公園内にはスポーツ文化館と熱帯植物館の2箇所にAEDが設置されていますが、実際に病人がでたときの迅速な対応など課題も浮き彫りになりました。

今回の訓練をもとに、緊急時における近隣施設との連携や対応、そのための日常的な連絡協議をさらに発展させることが重要であると感じられました。また展示館としても、日々の防火へのとりくみとともに、地震や災害時への来館者の誘導など訓練にもとりくんでいきたいと思えます。

船を見あげて朗読劇

4月28日、都内の演劇グループが第五福竜丸展示館を見学を訪れ、船首

下で朗読劇を披露しました。ベン・シャーデンが描いた絵に詩人のアーサー・ビナードが構成した絵本『ここが家だ』を、演じました。館内に響く演者の声は迫力に満ち、通りがかった来館者も引き込まれるように見入っていました。ラストシーンで演者が船を見上げると、来館者も一斉に船を見上げます。普段とは異なる視点で、福竜丸の航海に思いを馳せました。



園芸ボランティアの協力

第五福竜丸展示館前ひろばに建てられた久保山愛吉記念碑のまわりには「愛吉・すずのバラ」が10本ほど植えられています。このたび江東区の園芸ボランティア「さくらさくらの会」の皆さんが、バラの手入れと花壇の整備に協力くださることになりました。

4月の初めには展示館の西側入り口の横に小さな花の植栽が設置されました。

新しい事務局員が入りました

2015年4月1日より、蓮沼佑助が、三年間の研修を経て事務局員として勤務しています。よろしくお願いします。

◆おわびと訂正◆

福竜丸だより3月号（No.386）に誤りがありました。2頁の「3・1ビキニ記念のつどい」でのトークの記事中、豊崎博光さんがビキニ環礁を初めて訪れた年を1968年と記載しましたが正しくは1978年です。お詫びして訂正いたします。